

第 7 回 9 条世界宗教者会議報告

日本国憲法第 9 条に込められた平和の精神を再確認し、世界に発信しようと 7 回目となる 9 条世界宗教者会議が 3 月 2 日・3 日両日、東京と沖縄をベースにオンラインで開催された。「憲法 9 条とアジアの平和～沖縄からの祈り～」のテーマのもと、13 か国・地域から約 120 人が意見を交わした。3 月 6 日の報告会では 6 項目の行動計画を盛り込んだ共同声明が発表された。

昨年、沖縄での開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期され、オンラインとなった。開会に当たり実行委員会の渡部信委員長（NCC 日本キリスト教協議会議長）は、コロナ禍後、「世界の分断化がさらに顕著になった」と警戒感を示した。

また沖縄が、戦中は激戦地となり、戦後は軍事拠点とされたことから、「沖縄の人々の生の声に耳を傾け、戦争のない世界平和実現の為、憲法 9 条をシンボルとしていかなる戦争参加への改憲にも反対していきたい」と表明した。

基調講演は、憲法学者の小林武氏（沖縄大学客員教授）が「平和憲法 9 条と沖縄」と題して。事前に動画配信された講演を補足した小林氏は、1972 年に本土復帰により沖縄県民は平和憲法下に置かれるはずだったが、日米安保・地位協定が適用され、「県民の平和に生きる権利を踏みにじる、苦難の源になっている」と指摘。戦後 27 年間にわ

たり平和憲法が適用されず、復帰後も駐留米軍が日本の法律外にあることを批判した。

憲法 25 条の生存権が前文にも明記されていることの重要性も解説し、「平和的生存権は他国の憲法にもあるが、日本は国家が抵抗してはならないという 9 条が結びついて平和主義が成立している」と展開した。

前文の英語版を読んだ海外参加者からは、「初めて前文の第 2 段落を読んだ。平和だけでなく、正義を語っている。抑圧や隷従などがない世界で生きる権利があると謳っているのは感動的だ」とのコメントが寄せられた。

続いて各国の参加者が発題。日本山妙法寺の鴨下祐一氏は在住している沖縄での基地問題を紹介し、米国での平和運動に参画した体験を交えながら、様々な立場にある人達の参加を促す必要があると訴えた。韓国のチョン・ウクシク氏は、朝鮮半島の非核化と平和プロセスの観点から、共通未来のために日韓が共同して歩む上で 9 条は重要な意味を持つと述べた。

米国領土であるグアム島のモネッカ・フローレス氏は先住民族の立場から米軍によって様々な苦難を強いられている状況を報告。水源汚染・放射能汚染・枯れ葉剤・暴力行為などに加え、言語や伝統的文化、慣行の禁止などを列挙し、「侵略してきた行政権力の統治下」という沖縄とグアムの共通点を指摘した。

2 日間の会議に続いて共同声明の起草委員会が断続的に開かれ、3 月 6 日の報告会で発表された。声明は 9 条全文を冒頭に掲げつつ、沖縄と国際情勢を概説し、今年 5 月の

憲法記念日に沖縄の抗議運動への連帯など6項目の行動計画（以下）を明らかにした。

第7回9条世界会議共同声明の行動計画

1. 2021年5月3日、午後6時、「普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会」に連帯し、オスプレイ配備の反対、軍事基地の撤去、暴力への抗議（NO! OSPREY NO! RAPE NO! BASE）を表明して、We shall overcome を歌う会を各地で開催する。
2. 沖縄辺野古新基地建設埋立工事に、沖縄戦戦没者(日本兵、沖縄住民、朝鮮半島からの連行者)の遺骨が眠る沖縄本島南部の土砂を使うことに反対する意思表示を行うために、沖縄県知事あてに、ファックスあるいはメールで反対のメッセージを送る。
玉城デニー沖縄県知事は、知事権限を行使し、熊野鉦山の開発をやめてください。
遺骨が眠る土砂を基地に使ってはならない
要請先 沖縄県知事公室広報課 Fax 098-866-2467
メール kouhou@pref.okinawa.lg.jp
3. 2021年5月3日、各国の日本大使館に[9条守れ]のメッセージを送る
4. 韓国平和アピール 朝鮮戦争を終結せよ Korean Peace Appeal – End the Korean War
を支持する <https://en.endthekoreanwar.net/>
5. バイデン政権にたいし、「アジア基軸」(Pivot to Asia)政策を再検討し、対立を避け、武力の行使、あるいは脅威によらないアジア太平洋地域の緊張緩和を強く求める
6. 若い世代が、平和、非暴力について知識を深め、体験によって感性を培うために、体験学習、オンラインのプログラム、諸宗教の祈りの集いなどについての情報を交換する。

今回はオンラインによる開催への変更に伴い、開会時の理事長ご挨拶、討議へのご参

加等、貴財団からの絶大なるご支援に、改めて心より感謝申し上げます。